

諏訪市に生育している特定外来生物 その2

アレチウリ

- 分類 双子葉植物 離弁花類 ウリ科
- 生活型 一年草
- 原産国 北アメリカ
- 移入経路 1950年代に初めて確認された。輸入飼料に種が混入していたと言われている。



■特徴

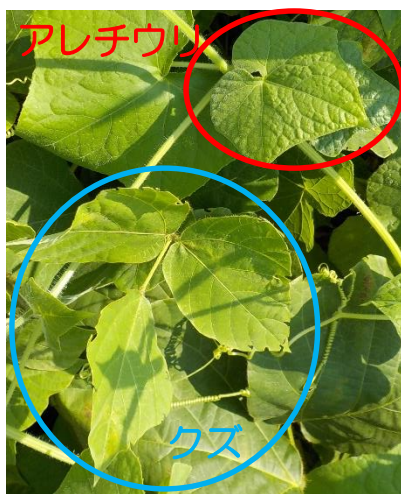
【花】雌花と雄花があり、直径1 cm程度の黄白色の花が集まり、葉の脇から出ます。開花時期は8～10月。



《葉》



《双葉》



《クズの葉との違い》

《雄花》→



【葉】手のひら状の五角形で、茎との付け根はハート形にくぼんでいます。葉の両面ともざらざらとしています。直径10～20cm程度。双葉は楕円形をしています。クズと似ていますが、クズは葉が3つに分かれています。

【果実】トゲに覆われ、複数の実が集まっています。直径1～2cm程度で、風、雨や人や動物に付着して運ばれます。トゲがある果実は駆除しにくいため、果実ができる前の駆除が有効です。



《果実》

【茎】茎はつるになっていて、毛が密生しています。茎には巻きヒゲがあり、他の物に巻きついて、長さ数～十数mになります。もともと生育していた植物の上を覆って日光をさえぎってしまい、生態系や農業に大きな影響を与えます。



《巻きヒゲ》



《草原を覆った状況》

■影響 河原等で大繁茂し、もともと生育していた植物等を駆逐して生態系や農業に悪影響を与えています。1株当たり400個以上の種子をつけ旺盛に繁殖するため、駆除には多くの時間と労力が必要です。

■近縁・類似する種

日本の在来種には、アレチウリと同じアレチウリ属の植物はありません。クズやカラスウリはアレチウリと同じようにツル植物ですが、日本の在来種です。それらとの違いは、下記をご覧ください。

【参考】 特定外来生物同定マニュアル(環境省)

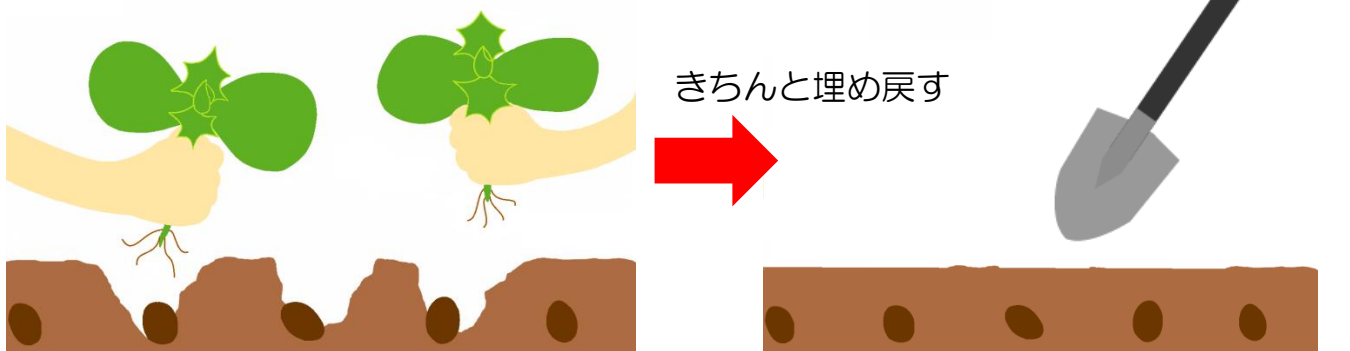
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual.html>

■駆除時期・注意点・駆除方法

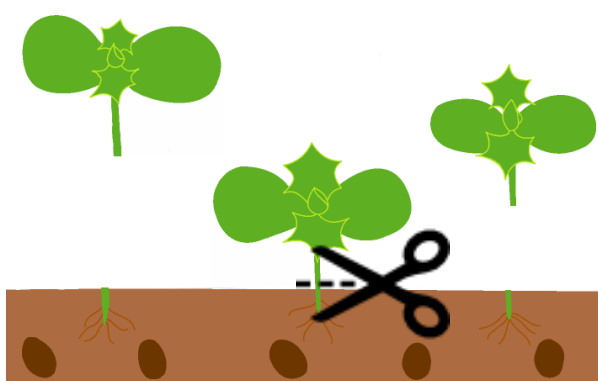
- ・ツルのため、成長してしまうと根本を探すのが大変で労力がかかります。できるだけ小さいうちに作業を行うことが効果的です。
- ・種子は土壌内で数年間生きることができ、光が当たると発芽するため、駆除した場所からも翌年以降に生えてくることがあります。そのため、数年間継続した駆除が必要となります。

■駆除方法

①抜き取り



②刈り取り



- ・できるだけ根本から刈ってください。
- ・掘り起こしてしまった場合にはきちんと埋め戻してください。

駆除したものは、他の場所に拡散しないように処分することが必要です。詳しい処分方法については、諏訪市役所環境課（電話0266-52-4141 内線214、215）までお問い合わせください。